

視点

新たな埼玉ブランドの創造に向けて

～(社)埼玉県物産観光協会誕生～

(社)埼玉県物産観光協会会長 山崎 嘉正



本年4月1日に(社)埼玉県観光連盟と(社)埼玉県物産振興協会が合併し、(社)埼玉県物産観光協会として、新たにスタート致しました。両団体は、それぞれ昭和26年、昭和35年に設立され、長きにわたり埼玉県の観光振興、物産振興に寄与してまいりました。

今回の合併は、埼玉県全体の物産観光の振興を更に強力に推し進めることを目指したものです。関連の深い両団体が一体となり、会員同士が交流を深めた事業が活性化することは、観光客の誘致や新商品の開発、県産品の販路拡大などを通じて、地域の活性化に大いにつながるものと期待しております。

近年、旅行者の嗜好は多様化、成熟化しており、従来の団体・慰安といった画一的な観光旅行に代わり、少人数で気軽に地域特有の魅力を楽しむ参加・体験型などの新たな観光が注目されてきております。

人口約4千万人の首都圏マーケットの中央に位置し、交通の利便性も高い本県にとっては、観光を飛躍させる絶好の風が吹いていると言えます。

埼玉県は、祭り、スポーツ、花の名所、水辺のスポットなど、人々の憩いの場所がたくさんあります。秩父の芝桜は、平成14年度の開園からわずか5年で、ゴールデンウィークの人出が全国ベスト10に入っています。

川越は、蔵づくりの町並みの人気投票で第3位、ライン下りでは長瀨が第4位です。企業博物館では、さいたま市の鉄道博物館が堂々の第1位です。

一方、埼玉県の県内総生産は全国第5位で、ひとつの国家並みの経済規模を誇っています。ハイテク産業からベンチャー産業、伝統産業まで多彩な産業が息づいており、キラリと光る技術を持つオンリーワン企業も数多くあります。

個別の品目でも、「味は狭山でとどめさす」と歌われる「狭山茶」、せんべいの代名詞となっている「草加せんべい」、関東一の製造量を誇り、味の評価も高い「埼玉の地酒」など、全国に誇れるものばかりです。

埼玉県物産観光協会には、こうした県内を代表する物産を製造・販売する企業の方々や、観光事業者の方々が多数参加されております。

今後、地域の魅力と物産の魅力が融合し、磨きがかかるならば、埼玉が持っている大きな潜在力が引き出されるに違いないでしょう。

合併のメリットを十分発揮して、長期的視点に立った、戦略的な物産観光振興を推進し、新たな埼玉ブランドの創造に向けて取り組んでまいります。皆様方の御指導、御支援、御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。